センターの近くにあるメタセコイア並木

はぐくむ

No.10（平成17年）
社会福祉法人 鶴風会
東京小児療育病院
みどり愛育園
西多摩療育支援センター
後援会

ー連絡先ー
東京都武蔵村山市学園4-10-1
電話 042(561)2521(代表) 〒208-0011
東京小児療育病院内
Eメール　tcrh@kakufuh.com

理念

私達は
障害児者の生命・機能の維持
向上と生活援助のため誠実に
積極的に取り組み障害児者と
その家族を支援します

1頁 西多摩療育支援センター開設一年
2頁 西多摩療育支援センターだより
3頁 四十年のあゆみ・みどり愛育園園長より
4頁 大江光氏のコンサート
5頁 国際ソロプチミスト西多摩見学など
6頁 永年勤続・新人紹介など
8頁 S・Sコーナー・行事予定など
9頁 後援会だより
10頁 ご寄付者名簿

西多摩療育支援センター開設一年

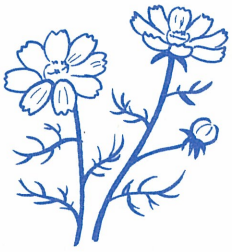
センター長　鶴岡　広

昨年四月に西多摩療育支援センターが開設され早一年たちました。東に新緑のメタセコイヤ並木、西の奥多摩の山々にかかる白い入道雲。当センターの環境には心が洗われる思いです。

センターは、一つの建物のなかに、有床診療所「上代継診療所」、身体障害者療護施設「楽」（定員三十人、短期入所二人、ＡＬＳ二人）、重症心身障害児者通所施設「もえぎ」（定員二十五人）および地域交流室があり、複数の機能を持ちます。

とりわけ身体障害者療護施設は、鶴風会としての新規事業であり、体に障害を持つ利用者の方々に、地域の中での生活を送るために必要な支援を行ってきました。隣接するあきる野養護学校をはじめ地域ボランティアの方々およびご家族のご協力に感謝申し上げます。

昨今の社会情勢は福祉の事業に取り組む私共にとり、誠に厳しくなるばかりです。然しながら、ひるんではいられません。これから、障害を持つ方の地域での社会参加、障害を持つ子供たち、地域の人々と共に、活き活きとした生活を送れるような支援が求められます。センターが発展的に機能していくためには多くの課題がありますが、「障害がある方とその家族により良い支援を」目標に試行錯誤を繰り返して、違う力を合わせて進んでいきたいと思っています。



西多摩療育支援センターだより

重症心身障害児（者）通所施設「もえぎ」

施設長　岡田祐輔

昭和六十二年、みどり愛育園で重症心身障害児（者）通園事業が始まって以来、長年にわたり広域の重症心身障害児者の方にご利用いただいておりました。しかし、対象者の増加、施設設備の不備などの問題が、年々大きくなっていました。

平成十六年四月、保護者の願いを具現化するべく、鶴風会は事業の一環として新設を決定し、以後厳しい状況の続く中、長年みどり愛育園で築き上げてきたものを基礎として、西多摩療育支援センターに重症心身障害児（者）通所施設「もえぎ」を開設しました。もえぎという名は、春を迎え木々に若葉が芽吹くように、希望をもった新たな出発という意味で名付けられました。

支援費の導入、自己選択、自己決定、「与える・守る」から「選ぶ・支援する」へ、そして自立支援法といった社会の大きな変革のなか、重症心身障害児者通所施設も、地域生活支援を重視する考え方が求められています。障害の特性、個人の特性を理解し、個人のニーズに見合った質の高い療育を提供していかなくてはなりません。

これまでに、さまざまな行事に加え、小グループや個人での活動、地域の行事や活動への積極的参加、地域の人達との交流、入浴設備の開放など、できるところから徐々に取り組んできました。今後、生活全体を考えた個別の支援計画、診療所や療護施設の利用者との交流、新たなニーズへの対応なども検討していきたいと思います。

西多摩療育支援センター入口

有床診療所「上代継診療所」

所長　岡田祐輔

上代継診療所は、平成九年、あきる野学園養護学校開設とともに、保護者の方々の熱い願いに応えるため、関係者のご尽力によって、校内の一隅に小さな診療所として開設されました。二〇〇四年四月、鶴風会は隣接地にようやく西多摩療育支援センターを開設したので、その中に移転し、療育、リハビリテーション機能を備えた有床診療所に発展いたしました。医療施設ではありますが、ほかの機関と協力しながら、利用者のさまざまな事柄、例えば居住、就労、地域生活支援、施設支援や人材育成などの相談機関、および福祉施設としての役割も担っていきたいと考えています。

リハビリテーション部門は、発達や機能を促進、維持に加え、地域生活の幅を広げること、成人期の生活を充実させるための支援も目標にしたいと思います。病棟での短期入所（知的障害者および児童短期入所）は、本人支援と共に介護者、家族の支援であります。

診療所ではこれまでに、市町村の発達検診、養護学校校医、医療的ケア指導医、養護学校や通所、入所施設へのスタッフ派遣、就学指導委員会、各種のコンサルティング（保育園、幼稚園、学校、作業所、福祉施設等）、研修会、事例検討会などの開催、講師派遣、実習生受入れなどの活動、支援も行ってきました。今後の課題として、本人活動の場としてのグループ作り、保護者の学習会や情報交換の場の提供、ボランティア養成などを検討しています。

身体障害者療護施設「楽」開設から一年

施設長　柳瀬達雄

西多摩療育支援センターとともに開設しました「楽」は、おかげさまで一年を迎えることができました。思えば、一年前の四月のオープン時はまだ、東京都から推薦を受けた利用候補者との面接が残っており、職員の研修や支援体制を整えることを同時進行させていたので、手探り状態だったことを思い出します。しかし、面接で利用候補者とその家族に会う中で、その社会的状況や障害の重さ、特に医療的なニーズの必要性を改めて感じました。開設時の四月には、約半数の利用者を受け入れ、この一年で定員全員が入居されましたが、私たちが想定していた範囲を超えて対応しなければならないことが多くありました。たとえば、障害の重さなどによる身体介護についてはある程度覚悟していたのですが、思った以上に精神疾患や知的障害などのメンタルな部分への対応が重要であること、また、医療的な処置や配慮がほとんどの方に必要だったことも改めて実感させられました。この一年はこうした利用者生活を整えることで過ぎたように思います。

二年目を迎えた「楽」では、日中の作業や趣味などの活動を充実させ、利用者の生活がより豊かになるように工夫し、支援して行きたいと思います。

四十年のあゆみ

理事　本明登志子

この度、東京小児療育病院が開院四十周年を迎えることが出来ましたのは偏に多くのご支援とご協力によるもので、心から感謝いたしております。

本事業を立案実行された初代理事長龍知恵子先生はじめ、当初の役員の多くは他界されておりますが私は若輩であったために、この記念すべき日を迎えることが出来ました。

「開院四十周年記念誌」に、当時全く世情に疎い私共が本事業を遂行するために多くの方にお力添えを頂いたこと、また、大変ご迷惑をおかけしたことを述べました。考えてみますとそのことは、四十年経った今日では絵画の額縁のようなもので、額縁の中に納まるものは、入院されておられる方々の療育の成果にあると思います。そこで私が病院の実務（昭和三十九年開設時から十八年）に携わっていた頃のお子様をお尋ねすることに致しました。みどり愛育園は昭和四十五年九月より定床五十名で発足しました。発足時の入園児はすでに東京小児療育病院に入院しておられたお子様でした。

ケースワーカーの清宮さんに昭和五十五年にみどり愛育園に在籍されておられる方を調べていただくと同一人が三十二名おられました。三十二名の方々の年令は二十八歳から四十三歳、男子十五名女子十七名、入園期間は（東京小児療育病院を含む）大体二十五年から四十年でした。期間が一番長いのは三十五年以上で十八名おられました。この方達は病院の四十年の療育の歴史を共に歩いてこられた方達です。

二〇〇五年一月二十九日みどり愛育園をお尋ねしました。病棟に入るとすぐ車椅子の青年に会いました。清宮さんが真一郎君ですとご紹介くださいました。ご挨拶するとチラリと私を見てすぐ面を伏せました。真一郎君は恥ずかしがり屋さんと私は思いましたが、後から考えると当時の私しか知らない彼は、突然白髪頭の私から声をかけられてびっくり仰天したのだと気がつきました。彼には幼い頃の面影がありました。

伺った時間帯は入浴時間でした。皆様気持ちよさそうで、眠っておられる方、「こんにちわ」と挨拶を交わしてくださる方もおられました。清宮さんにご紹介いただき十八名の方々にお目にかかり、今日まで健康を維持できたことに感激いたしました。皆様成長されて昔の面影をうかがうことができませんでした。二十五年もお目にかからなかったので無理もないと思います。

障害を克服して頑張った方々の四十年の歴史、心配なお子様を抱えながら街頭募金までしてくださったご両親、心の声を聞きながら療育に誠実に積極的に取り組まれた職員の皆様のことを思い、これまでの歴史を顧みて感謝しつつ帰路に着きました。

私共の施設は皆様のご協力で日本でも優れた重症心身障害児施設と言われているようですが、なお一層の療育の前進と向上を願っております。また、遺伝子医療、再生医学の臨床応用等が進められている現在、私共の施設の方々に対しても一日も早く手を差し伸べられるよう願っています。

付　本明理事は、本法人の創立者の一人です。

みどり愛育園

園長　長　博雪

私が当院に参りましたのは、一九八四年八月のことでした。

当時は、「脳性マヒ研究所」のあった建物に医局があり、施設長は棚瀬先生、常勤医師は鈴木先生、岡先生と私の3名でした。周囲の風景も含めて、牧歌的な雰囲気もいっぱい残っておりました。現在の常勤医師が十八名、常勤歯科医師が2名、非常勤の職員も合わせると三九〇名近くの職員がいると現在とは隔世の感があります。しかし、鈴木先生の熱い教育方針のもと、私は家族とともに院内の宿舎に居住させて頂き、利用者の方々とともに生活して今日に至っています。原田先生や石原先生、埜中先生をはじめ、多くの支えてくださった先生方のお陰と感謝しております。

鈴木先生は常に、「数年先はこうなるよ、だから当院はこういう取り組みをしていこう」とつぎつぎに方針を出して下さってきました。一九八五年、舟橋先生が多摩療育園より、当院にいらして頂きました。年齢こそ私達と近いのですが、鈴木先生は「お父さん」、舟橋先生は「お母さん」ともいえる存在。診断や治療・療育方針、そのほか様々なことを相談しながら歩んでまいりました。この間、入所から在宅支援療育へ。地域支援、さらに、発達障害を持つ方々への様々なサービス、診断、支援、教育と当院の活動範囲が広がっております。

医師の役割は「チームリーダー」としての役割も大きいと思います。今後は、当院に研修に来られた先生方が、「療育のスタンダード」を全国に広めていただくお手伝いができたらと思っております。

♪♬"もう一度大江光"のコンサート♪♬

理事長　五島瑳智子

二〇〇五年六月十二日、東京オペラシティコンサートホールで大江健三郎氏の「知的な明るさの方へ」と題した講演と、大江光氏の作曲によるコンサートが開かれた。

大江光氏はノーベル文学賞を受賞した大江健三郎氏のご子息で、生まれながらに脳に障害をもっていた。知的障害のある光氏に音楽的資質のあることを、父君健三郎氏が気づいたのはある夏の日幼い光君を背に負って散歩をしている時のことだった。鳥の声を聞いた光君がひとりごとのように「アレハクイナデス」……しばらくして再び聞こえた鳥の声に、また「アレハクイナデス」……

鳥の声にも、その鳥が水鶏なのかも特別気にとめなかった父君は、もしかしたらこの子には音に対する感受性があるのではないかと思ったという。そして音楽の先生に光君のことを相談した。それが光君の音楽活動のはじまりだった。

一時は光君と共に死を考えたことさえあったという父君がこのことに気づかなかったら、今の光氏の音楽は生まれなかった。運動機能も並ではない光君は楽器の演奏は無理なので、作曲の指導がはじまった。

東邦大学医療短期大学が十周年を迎えた一九九五年、大江氏に記念講演をお願いしたいと考えたのは、光君の資質、才能の萌芽に気づいたことに、深く感動したからであった。自分が大江氏の立場だったら、わが子の資質に気づいただろうか。障害を持つ子を大切に気づかい、愛している家族さえも、表面に表れない障害児の能力に、長い間気づかない例は思いのほか多いことを知っているだけに、その思いは強かった。

大江氏は私の願望を理解して、講演を快諾して下さったのはノーベル賞受賞の一年前のことである。受賞後の超多忙の中、講演の準備をして下さり、光氏の作曲によるコンサートを同時に開くことにも賛同して下さった。当時光氏はすでにCDを二枚リリースしており、彼に絶対音感があることも明らかになっていた。

先にリリースした光氏のCDの中で私はとくに"Mのレクイエム"という曲に惹かれていた。その曲は光君を幼少の頃から診て下さっていた医師のM先生が亡くなられた時、作曲されたということを後で知ったが、今年の六月のコンサートで、父君の話から、その時の状況をきくことができた。光氏はM先生の亡くなられたことを知った時、身体を固くして動かなくなり、言葉を発することができなくなったという。そして次の日、大きな癲癇発作を起こし、一週間は何もできなかったとのことである。"Mのレクイエム"はその後作曲された。悲しみの深さがショックとなり、強度の身体的反応がおき、硬直状態からようやく解き放たれた時、生まれた曲であったことを、この日初めて知った。

また、光氏が師事している作曲家の加羽沢善濃女史から、光氏との作曲の経緯が語られた中で、とくに印象深かったのは、曲の中に違和感のある音を指摘すると、光氏は直接その音を代えるのではなく、周囲の音を代えて、違和感のない曲に仕上げていくことが度々であったという事実である。

欠点と思うことを直接指摘し易い我々には胸の痛くなる話であった。

十年前、フルート奏者の小泉浩氏に促されて、ゆっくりとステージに現れた光氏は、たどたどしい言葉で「私の音楽を聴いて下さってありがとう」とだけ言って、深々と一礼したが、この度のコンサートでは、自分の言葉を記述したかなりの長文の原稿を手に、ゆっくりとではあったが、多くのことを語ってくれた。彼の行動はすべてゆっくりで、曲も速いテンポのものはなかったが、今回は黒柳徹子さんのために、彼女が早口で話している様子をたたみかけるようなヴァイオリンの音色で表現した"はやくち"というテンポの速い曲が演奏された。表情も体形も十年前とほとんど変わらなかったが、音楽以外のことも確実に進歩していることが感じとれた。

光氏の音楽を楽しんだだけでなく、多くのことを教えられた貴重な時間であった。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

千葉県白井市からの施設見学

二月十八日（金）午後、白井市学校保健会会長島田敏雄先生をリーダーとする学校関係の皆様（教育長、学校長、養護教諭、校医、薬剤師、PTA会長等）総勢二十五名がご来院、施設見学をされました。病棟、訓練棟、通園棟、デイケア等の施設の状況や、訓練の様子等を見学されました。早朝、千葉県をバスでご出発されたにもかかわらず、見学後研修室での質疑応答でも活発な意見交換がされ、予定時間を二十分もオーバーする程でした。また本施設の為にと多額のご寄付を頂戴致しました。

今日の施設見学が白井市学校保健会の皆様の一助になれたらと思いつつお見送り致しました。

国際ソロプチミスト東京ー葵の西多摩見学

五月十七日に国際ソロプチミスト東京ー葵（会長　渡辺早苗さん）の一行二五名が西多摩療育支援センターを訪れ、施設内を見学されました。国際ソロプチミスト東京ー葵は実業界・専門分野で活躍する女性たちで構成された世界的な奉仕団体の東京支部として設立十五周年を迎えたとのことです。鶴風会にたいしても一九九二年より支援をしていただいております。今回の見学目的は「今後も支援活動を続ける為に、新施設を訪問して現場を知り、少しでも状況を理解したい」ということでした。

見学に先立ち、渡辺会長より当法人の五島理事長に寄付金の贈呈が行われました。施設見学では、明るく広い室内に見学者の方々は一様に感心されていました。また、今回の見学者の中には台東区障害児者を守る父母の会が運営するＮＰＯ法人の職員の方も数名参加しており、施設内の設備や機器について熱心に質問されていました。

見学終了後は、隣接するメタセコイアの並木の下で全員で記念撮影をし「あの冬のソナタのロケーションみたい」とにこやかな笑顔でセンターを後にされました。

右、渡辺早苗会長

国際ソロプチミストの皆様

昭和会賞受賞画家宮崎画伯より絵画を寄贈

平成十七年五月二十八日、かねてより五島理事長と親交の厚い、画家宮崎次郎様より、鶴風会に作品「黎明」を寄贈いただきました。海外においても幅広くご活躍されている先生の作品は、大変寓話的で不思議な世界へと誘ってくださいます。同時に二〇〇四年に発行された画集もご寄贈いただきました。

鶴風会に携わる多くの方々に、この作品を通して宮崎次郎画伯の世界に触れて頂きたいと願い、展示させていただくこととしました。

付　宮崎画伯の父君は前東邦大学医学部講師・宮崎和先生です。

「黎明　L'Aube」

宮崎次郎略歴

1990	日本大学藝術学部美術学科を卒業
1995	第30回昭和会展に出品、昭和会賞受賞
1996	文芸誌「新潮」（新潮社）の目次挿画を描く 昭和会受賞作家展に出品
1997	文化庁派遣芸術家在外研修員として渡欧、パリ国際大学都市に滞在
1999	個展ー昭和会賞受賞記念展ー開催
2001	現代洋画の潮流展
2002	俊英作家洋画展に出品
2004	月刊美術４月号より宮崎次郎の「巴里の街角で」連載始まる

永年勤続表彰

平成十七年五月六日（金）、永年勤続者の表彰式が行われました。表彰者は次の通りです。

皆さん、おめでとうございます。

（敬称略）
（順不同）

勤続三十年　給食　大塚　周二
施設管理　林　保夫
ＳＴ　高泉　喜昭
勤続二十五年　検査　そぶ川富士子
訓練　染谷　淳司
勤続二十年　総括施設長　鈴木　康之
園長　長　博雪
検査　鈴木　恭子
東１病棟　堀内　妙子
給食　米井　幸治
通園　渡部　幸子
勤続十五年　薬局　内藤　洋子
リネン　中橋　知子
東２病棟　森林たづ子
勤続十年　通園　伊集院千春
西１病棟　村松　達雄
西１病棟　佐藤　哲也
西２病棟　高橋　直樹
東１病棟　松田　智弘
西多摩療育支援センター
勤続十年　川村　節子
以上二十名

表彰された皆様

新入職員紹介

①　氏名・所属
出身地・採用年月日
②　自己紹介・心構え等

東京小児療育病院

①鈴木直子・東１病棟・療育員・宮城県
H17年2月21日
②学生時代に学んだことを最大限に活かし、私らしく力を出していきたいと思います。

①久保田直子・訪看Ｓたんぽぽ・ＰＴ・東京都
H17年3月1日
②訪問先で出会う方々とのふれ合いを楽しみながら学ばせて頂いています。一期一会、日々を大切にしたいと思います。

①植松玲子・理学療法士・静岡県
H17年4月1日
②学生時代はボート競技で鍛えましたが今やすっかり運動不足です。利用者の皆さんからパワーをもらって頑張ります。

①内田朋・作業療法士・東京都
H17年4月1日
②体育大出身ですが、体力はありません。でも、笑顔を絶やさず頑張りたいと思います。

①内海直明・西２病棟・看護師・愛知県
H17年4月1日
②西２病棟で唯一の男性看護師です。まだまだ勉強不足ですが、子どもたちのために早く一人前の看護師になりたいです。

①大澤奈保・言語聴覚士・東京都
H17年4月1日
②周りの方々にたくさんのアドバイスを頂き、感謝しております。いろいろなことを吸収して頑張りたいと思います。

①大武奈津季・西１病棟・看護師・東京都
H17年4月1日
②今年の春に看護学校を卒業したばかりの新人です。職員の方、利用者さんから多くのことを学びたいです。

①菅野麻衣・作業療法士・埼玉県
H17年4月1日
②利用者の方々との心の触れ合いを大切にしながら、その方の生活の一部として溶け込める様な存在になりたいです。

①木下さおり・医局・医師・福井県
H17年4月1日
②西年生まれのせいか、いつもバタバタと動きまわっておりますが、心に余裕をもって仕事に臨みたいと思っています。

①小坂美樹・医局・歯科医師・東京都
H17年4月1日
②趣味は音楽とショッピングと筋トレと散歩です。思わず行きたくなるような歯科にします!?眠くなるかもしれません。

①志水達雄・医局・医師・愛知県
H17年4月1日
②発達について勉強すべく杏林大学より参りました。少しでもお役にたてればと考えております。

①高橋亜紀・西1病棟・看護師・岩手県
H17年4月1日
②利用者様の笑顔が沢山みられるように働いていきたいです。

①飛田孝行・作業療法士・茨城県
H17年4月1日
②これから利用者の方々と楽しく暮らせるように、勉強と努力をしがんがっていきたいと思います。

①中野真紀・作業療法士・静岡県
H17年4月1日
②学生時代はバレーボールをしていました。利用者の方へより良いトスを上げられるよう、頑張っていきたいと思います。

①野尻敬正・理学療法士・長野県
H17年4月1日
②体を動かすことが好きで、中学からスポーツをやっています。でも、基本的に引きこもりです。

①蜂谷耕士・東1病棟・看護師・兵庫県
H17年4月1日
②色々とわからないことだらけですが、努力して、少しでも成長していこうと思っています。応援お願いします。

①牧野七重・心理・東京都
H17年4月1日
②心と体の健康を常に心がけています。出会いを大切に、利用される方々にしっかりと向きあっていきたいです。

①三宅直子・東2病棟・看護師・東京都
H17年4月1日
②念願だった職場で働く事が出来たので利用者さんや先輩方から多くのことを学び勉強していきます。

①武藤彩子・コーディネーター・東京都
H17年4月1日
②(む)武蔵村山の(と)東京小児療育病院の(あ)明るく(や)優しい(こ)コーディネーターと慕われることを目標に頑張ります。

①八巻文乃・コーディネーター・東京都
H17年4月1日
②皆さんに信頼されるような、なんでも知っているコーディネーターになれるよう努力していきたいと思います。

①吉村美耶・東1病棟・看護師・東京都
H17年4月1日
②今年学校を卒業したばかりでまったくの新人なのでわからないことも多いと思いますががんばります。

①若野昌裕・在宅支援室・サービス提供責任者・東京都
H17年4月1日
②水ようかんとアジフライが好きです。休日はボランティアで将棋を教えています。

①若林望夢・西1病棟・療育員・東京都
H17年6月1日
②体力と元気が取り柄だと思っています。体は小さいですが、大きな存在になれるようにがんばりたいと思います。

西多摩療育支援センター

①森田夫美・診療所・看護師・東京都
H17年3月1日
②学生時代に実習で東京小児療育病院に行ったことがきっかけで入職しました。障害児(者)の看護を学びたいと思います。

①成田由利子・療護・療育員・東京都
H17年3月30日
②人から声をかけられやすい性格です。笑顔を忘れずにしていきたいと思います。

①北峯睦・診療所・歯科衛生士・東京都
H17年4月1日
②完走を目標として、年2回マラソン大会に出場しています。体力を仕事に生かして頑張ります。

①栗原しのぶ・外来・クラーク・東京都
H17年4月1日
②私は地元出身です。障害者が通う施設で働くのは初めてですが、少しでもお役に立てればと思っています。

①柴田美幸・楽・療育員・東京都
H17年4月1日
②新卒で入ったので、まだまだ未熟者で毎日が勉強の日々です。たくさんの事を学び立派な療育員を目指したいです。

①藤島慶子・楽・療育員・東京都
H17年4月1日
②身長は低いけれど、パワーはあります。夏の青空を仰ぐヒマワリのように、明るく元気に笑顔でがんばりたいです。

①益子幸恵・診療所・療育員・東京都
H17年4月1日
②今春大学を卒業し、まだわからないことだらけですが、少しでも利用者のために役に立てる様な存在になります。

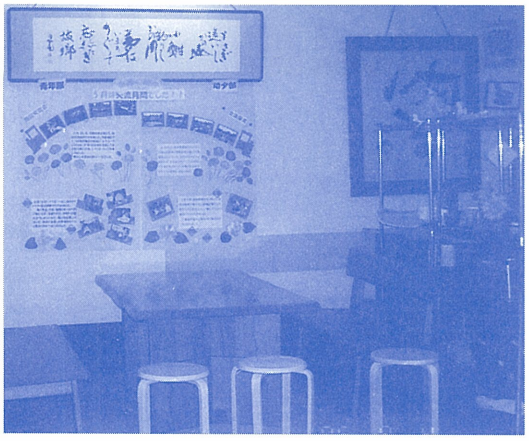
①古別府美知子・診療所・看護師・山形県
H17年5月1日
②障害児看護に興味があり、チャレンジ精神で入職しました。思った以上に大変ですが、笑顔で頑張りたいと思います。

憩いの『S・Sコーナー』

今年三月末に病棟一階エレベーターホールの一角に素敵な木製テーブルと長椅子を設置、利用者さんや父母の方々がゆっくりくつろげるコーナーを開設しました。

昭和三十三年勤務され、本年三月に退職された当病院のケースワーカーの清宮祥子さんが、利用者さんとご家族の皆さんが休憩できるコーナーを設置してあげたいとテーブルと長椅子を寄贈して下さったのです。この一隅の名称を清宮祥子さんのイニシャルを拝借し、感謝の意味を込めて「S・Sコーナー」と呼ぶことに致しました。

皆さんが休憩や懇談の場として、美しくご利用下さるよう願っています。



病棟１階エレベーターホール前「S・Sコーナー」

行事予定表（平成17年９月～平成18年１月）

		９　月	10　月	11　月	12　月	１　月
東京小児・みどり	東１病棟	15日　ピクニック	15日　幼少運動会		18日　クリスマス会	１～２日　新春を祝う会
	西１病棟		23日　日帰り旅行		11日　クリスマス会 22日　忘年会	１～３日　初詣 12日　新年会
	東２病棟	９日　ハイキング 13日　ハイキング	14日　ハイキング 18日　ハイキング 30日　アスレチック		25日　クリスマス会	１～３日　初詣 8日　成人式及び新年会
	西２病棟		23日　スポーツ大会		23日　クリスマス会	８日　成人式
	通園 幼少	プール	15日　運動会	９日　七五三	３日　クラス発表会	18日　餅つき
	青年	プール			15日　パーティー	12日　成人を祝う会 新年会
	全　体		２日　みどり祭り 30日　チャリティーバザー		４日　オルフェの会	
西多摩	楽			中旬　活動交流会	21日　忘年会	１～３日　新年を祝う会
	もえぎ	13日　遠足	中旬　おイモ掘り	14日　幼少七五三	15日　パーティー 22日　クリスマス会	６日　新年餅つき大会 11日　初詣 17日　成人を祝う会
	全　体			13日　センターまつり		

編集後記

西多摩療育支援センターも開設して早一年が過ぎました。利用者さんや職員も増えて、充実した日々を過ごしています。

今年も、バザーやセンター祭りが行われます。

まだまだ残暑が厳しいので皆様のご健康をお祈りいたします。

S・T

チャリティーバザーのお知らせ

日時　10月30日（日）　10：00～15：00

場所　東京小児療育病院　院庭

※御寄贈品を多数、受け付けております。ご協力お願いいたします※

皆様のお越しを心よりお待ちしております!!

社会福祉法人　鶴風会
後援会だより

倉島攝子先生をお偲びして

評議員　小川　昭子

平成十六年十二月十五日、私共の敬愛する先輩、倉島先生が他界されました。

色白でふっくらとお太りになって居られたご健康そうな印象からはとても信じられませんでした。まだまだ御元気で御活躍下さるものと思いこんで居りましたので驚き、悲しく、残念でございます。

先生は、社会福祉法人鶴風会理事長として、三代目理事長本明登志子先生の後を継がれ、四代目として昭和五十七年六月から平成十六年六月迄、二十余年もの間、お勤め下さいました。この間、並ならぬご苦労、御努力された事は、皆様、既に御承知と存じます。いつもにこにことして美しい声色で理事会や評議員会等で会をスムーズに進行させて下さいました。二・三年前から膝関節炎で杖をついて居られ、又ひどい貧血であり乍ら編集会議にも出席下さり、責務を全うされたのです。そのお姿はおなつかしく、忘れる事が出来ません。

二月二十日には東京小児療育病院で、〝倉島攝子先生を偲ぶ会〟が行われ、先生とゆかりのある方々が多勢お集まり下さいました。

五代目理事長五島瑳智子先生はじめ、数人の方から心に沁みる思い出話を伺い、しみじみと生前の先生をお偲びすることが出来ました。小川和榮先生のお話では、クラスで五十六人目の物故者ということでした。人間の宿命として別れは必ずあるものと分かっていても本当に淋しさ一入でございます。

御令息のご挨拶で、亡くなる前日迄、患者さんを診ていらしたと知り、改めて胸を打たれました。八十余年の立派な人生でおられました。同窓生一同、心よりご冥福をお祈り申し上げたいと思います。後輩の私共は心を一にして、歴代の先生の遺された偉業を、五島理事長をお助けして、精一ぱい守り継いで行くことを先生の遺影にお誓い申し上げました。

オルフェの会のお知らせ

いつもチャリティー・コンサートにご協力いただき有難うございます。

今年も、オルフェの会を開催することとなりました。皆様に楽しんでいただけるよう、多数のプログラムをご用意しております。

皆様、お誘い合わせの上、多数ご参加下さいますようお待ち申し上げております。

尚、日程・場所等は、下記の通りとなっております。

チャリティコンサート
～オルフェの会～

と　き	２００５年１２月４日（日）
受付時間	１１：３０
開　演	１２：００
と　こ　ろ	新高輪プリンスホテル
出　演	東京バーバーズ・男声アカペラコーラス エーデルワイス・カペレ
会　費	２５，０００円

鶴風会後援会へご寄付者ご芳名

平成十七年一月～平成十七年六月
延二三二名（五十音順・敬称略）

相沢ミツエ・青木　悦・朝川　孝幸
浅川　恭行・足立　嘉子
五十嵐いづ子・池田喜久子・石田秀子
石原　良子・市来フジエ・五木　玲子
伊藤　文子・伊藤　禮・伊藤　元博
井上　礼子・井上　昌光・井上　康子
井上　裕子・猪俣賢一郎・今田　峰子
今西　昶子
上園瑠美子・上田　由紀・上野　洋子
内ヶ崎仁子・梅澤　重一・梅沢美和子
江口　環禧
太田美つ子・大谷　宏明・大塚　トシ
大山　みつ・大脇　照枝・緒方　月
岡山　哲廣・小川　再治・小川　昭子
奥山　伸男・小原　該一
柿添　瓊子・柁原　宏久・鹿島田忠史
勝目　宏・加藤喜美子・加藤　葉子
金森　勝士・金子　晴生・釜菟　登志
河村　康明・河村　裕子・神田　明
菅野　寿子・菅野　俊一
菊地　マサ・北野千賀子・木野　怜子
木山　博夫・旧鶴風会湘南支部会
楠　后代・久保　修一・蔵方　節子
黒田　光保・黒田　純子・黒瀧　俊彰
桑原　耕三・桑原　利章
向山　秀樹・向山　和代・越島新三郎
越島康太郎・越島　知子・越島健次郎
越島　園美・小島　栄吉・小竹原良雄
後藤加寿美・小林　一雄・小林登喜子
小林　信子・小林　義郎・今野　信子
斎藤　則善・斉藤　勝・斉藤　英子
寒河江和子・先山　隆司・佐々木道子
佐々木　綾・佐々木　忠・佐竹　直子
佐藤　行彦・佐藤　つや・佐藤　重雄
佐藤　芳子・佐藤　良子・佐藤　幸子
塩野　則次・志鳥眞理子・篠塚　裕子
柴田仁太郎・嶋崎紀代子・島田由美子
島田　敏雄・清水五百子・白井　貞子
杉本　寛子・鈴木　稔・鈴木　和子
鈴木　秀明・鈴木　良二・鈴木　信介
鈴木　圭
芹澤　滋幹
相馬　直子
高木　利明・高木　正人・高槻　義夫
高野　玄興・高橋　久子・高橋　篁子
武居　正郎・田郷　寿正・多田　久人
立原　芳子・伊達　愛己・伊達　陽子
棚瀬　延・谷　絹子・田部　秀山
塚越　実・月本　一郎・月本　伸子
鶴岡　康子・鶴岡　美果
戸張　千年・冨岡　瑞子・冨澤千代子
長岡　貞雄・中川　雅明・中里恵美子
中田　正幸・中谷　尚登・中西　隆
中野　實・中平　貴子・仲村　健一
中村ちなみ・中村　豊・中村志津子
中村　友美・並木　温
西井　華子・西澤　憲司・西平　守夫
西宮　常代・丹羽　修
根本　優子
野口　道子・野沢　和弘・野沢トヨ子
野沢医院募金箱・野村　正征
萩原　マチ・橋口　玲子・蜂矢　朗彦
浜田　雅・早川　芳江・林　馨
早原　千鶴・原田千鶴子・原田　則雄
原田裕美子・原田　品子・原山　国秀
平岩扶美子・平田　徹・平野　陽子
平野敬八郎・蛭田　啓之
深見　利子・藤井　京子・藤田ルリ子
藤野　隆子
前田　澄子・正林　婦美・馬嶋　順子
益子　智定・松岡　昌子・松島　正浩
松原　龍弘・松本　和子・丸山　葉子
丸山　和子・
水野　孝子・水野　惇子・水上　淳子
宮川千鶴子・三宅　三・宮崎　信
宮本　みち
森　勉・森　紘子・森　千恵子
盛川　洋一・盛川　温子・森澤　豊
諸岡　チカ・諸富　杏子
矢高レイ子・柳澤　信子・山住美津子
山田三枝子・山田　智政・山田　皐月
山出　孝子・山中みよ子・山村　憲
山本みどり
湯浅　玲奈・湯川　玲子
横田　照衛・横山　隆子・横山ちとせ
吉田　宏重・吉田　友英・吉見　梓
米澤　和彦
和田　俊洋・渡辺　和子・渡辺古都江
太田垣綾美・太田　貴子・上岡　謙夫
桜川　宣男・椎木　俊秀・清水　宏
杉山潤一郎・鈴木　康之・清宮　祥子
瀬野　国男・高橋百合子・武井　理子
武智　信幸・長　博雪・二宮　文乃
浜中　晴夫・平井裕見子・廣野　日善
福岡　賢二・舟橋満壽子・前田　稔
牧野　道子・松尾　賢二・松田　光展
松本　誓子・森田　英雄・矢嶋　義郎
柳　恵子・山口　恭子・山田　和孝
山田美智子・山谷　敏男・吉永　勇男
吉野　孝・和田　恵子・我妻　博之
石田　勇・今井　敏樹・菊地　由美
木原　徹郎・関根　雅弘・高橋　孝彦
中里由理枝・守田　洋

社会福祉法人鶴風会へご寄付者ご芳名（法人・団体・個人）

平成十七年一月～平成十七年六月
六三名（五十音順・敬称略）

カイラーサ・ヨーガ研修会
国際ソロプチミスト東京ー葵
拓洋物産㈱
通園保護者一同
通所もえぎ保護者会
東邦大学大森祭実行委員会
都立武蔵村山高校生徒会
病院利用者同窓会
武蔵村山市空手道連盟
もえぎ保護者一同
赤星　恵子・荒川とよ子・石野　清治
板垣　祝夫・板垣　紀夫・伊藤　清江
岩崎　雄・上野　陽子・鵜川美登里

東京小児療育病院 みどり愛育園へご寄付者ご芳名

平成十七年一月～平成十七年六月
四十名（五十音順・敬称略）

秋本　高弘・阿部　浩一・阿部美代子
飯田　順一・猪狩　祥子・幾田　祥正
石野　裕子・石丸正太郎・伊藤　雅子
井上　隆・今井　敏樹・江田　周二
海老原健介・大串　保雄・大塚　芳博
大宅　晶子・岡松　眞幸・亀井　博之
川村美知子・菊地　由美・小島　伸江
斉藤　雅彦・佐藤　芙美・篠　智子
渋谷麻利子・志村　幸一・白石由貴子
鈴木　美帆・高橋　京子・高橋　孝彦
竹中　幸宏・中里　賢・中里由里枝
長田　和久・萩原　真治・馬場　文彦
松山　穂豊・面田佳奈恵・山下　順子
渡辺　晃